凡　　例

1．第２図は国土地理院発行の５万分の１地形図「仙台」（平成14年）を、第３図は仙台市作成の都市計画基本図（平成10年）を、第４・５・66・67図は法務省大臣官房施設課作成の「宮城刑務所建物配置図」をそれぞれ修正して使用した。

2．遺構等の土層注記に記載した土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖』（2006年版）に基づいた。

3．調査の際の平面座標基準は世界測地系平面直角座標第Ｘ系に準拠し、標高値はＴ．Ｐ．（東京湾平均海面）を用いた。

4．本書に掲載した遺構図版縮尺は、遺構配置図が１：150、個別遺構平面図・断面図が１：50、１：60、１：100、基本層序が１：60として掲載した。

5．本書に掲載した遺物図版縮尺は、瓦が１：５、土器類・陶磁器類が１：３、金属製品が１：２、銭貨・石製品が１：１を原則とし掲載した。

6．遺　構

・遺構については以下の略号を使用し、後に続く番号はこれまでの調査での遺構に続き、遺構種別毎に連番とした。

　ＳＡ：塀跡　ＳＤ：溝跡　ＳＩ：竪穴住居跡　ＳＫ：土坑　Ｐ：ピット　ＳＸ：性格不明遺構

・土層名については基本層をローマ数字、遺構内堆積層をアラビア数字で表記し、細分層についてはその後にアルファベットの小文字を付し区別した。また未掘の遺構については、平面プランや撹乱等の断面観察により記録し、土層名を平面図中に記載した。

・遺構断面図版中にある斜線の網掛け部分は、掘削していない地山や未掘部分を示した。

7．遺　物

・遺物の登録は種別ごとに行い、本書に掲載した遺物には以下の略号を使用した。

　Ｃ：土師器（ロクロ不使用）　Ｄ：土師器（ロクロ使用）　Ｅ：須恵器　Ｆ：軒丸瓦・丸瓦　Ｇ：軒平瓦・平瓦

　Ｈ：その他の瓦　Ｉ：陶　器　Ｊ：磁　器　Ｋ：石器・石製品　Ｌ：木製品　Ｎ：金属製品　Ｐ：土製品

　Ｘ：土師質土器・その他の遺物

・遺物注記表内の法量で（　）で示した数値は推定復元値を示し、－は計測不能を示した。

・ＳＸ14から出土した遺物は地区別に西側・中央・東側などとして観察表内に表記したが、遺物に注記する際には西側を１、中央を２、東側を３と記した。

8．遺物図版に使用した各種トーンは下記の内容を表現したものである。

土師器の黒色処理
岸窯系の灰釉

土師質土器の
煤付着範囲

目　　次

巻頭写真図版
序　　文
例　　言
凡　　例
目　　次
図版目次
表 目 次
写真図版目次

第１章　はじめに……1
　第１節　調査と遺構保存に至る経過……1
　第２節　調査要項……2
第２章　若林城と調査の概要……3
　第１節　遺跡の地理的環境と歴史的環境……3
　第２節　若林城の概要……6
　第３節　これまでの調査……9
　第４節　調査の方法と経過……11
第３章　検出遺構と出土遺物……13
　第１節　基本層序……13
　第２節　Ⅲ層上面の遺構……15
　　(1) 土坑……15
　第３節　Ⅴ層上面の遺構……18
　　(1) 塀跡……18
　　(2) 溝状遺構……26
　　(3) 性格不明遺構……27
　　(4) 土坑……35
　　(5) ピット……40
　第４節　Ⅵ層上面の遺構……41
　　(1) 溝跡……41
　　(2) 性格不明遺構……44
　　(3) 竪穴住居跡……44
　　(4) 土坑……51
　　(5) ピット……51
　第５節　出土遺物……53
　　(1) 陶器……53
　　(2) 磁器……53
　　(3) 瓦質土器……53
　　(4) 土師質土器……53
　　(5) 瓦……54
　　(6) 金属製品……54
　　(7) 石製品・木製品・土製品……54
　　(8) 中世以前の土器……54
第４章　自然科学分析……86
　第１節　花粉分析……86
　第２節　動植物分析……94
　　1　炭化木の樹種同定……94
　　2　炭化種実の同定……98
　　3　獣骨貝類同定……99
第５章　まとめ……103
　第１節　確認遺構について……103
　　1　若林城期の遺構について……103
　　(1) 塀跡について……103
　　(2) 性格不明遺構について……104
　　(3) 若林城期の施設配置について……107
　　2　若林城期以前の遺構について……111
　　(1) 溝跡について……111
　　(2) 竪穴住居跡について……111
　第２節　出土遺物について……113
　　1　近世の遺物について……113
　　(1) 陶磁器……113
　　(2) 土師質土器……117
　　(3) 瓦……126
　　(4) 金属製品……127
　　(5) その他……129
　　2　若林城期以前の遺物について……129
参考・引用文献
写真図版

報告書抄録